

記念館の催し案内 MUSEUM EVENT

11.1^木 開館

11.3^土 開館記念特別展講演会 「鷗外 -その歴史小説誕生の劇-」

講師：山崎一穎氏（跡見学園理事長・森鷗外記念会会長）
会場：文京区立森鷗外記念館2階講座室
料金：無料（事前申込制、申込受付は9月下旬より開始します。）
＊詳細はHPや開館記念特別展チラシなどをご覧ください。

地域の催し案内 AREA EVENT

10.20^土/21^日 第14回 根津・千駄木 下町まつり

根津神社境内を中心に、地域の各所でスタンプラリーなどが開催されます。
主催：根津・千駄木下町まつり実行委員会事務局 03-3822-3653

11.4^日 津和野町+上千駄木+ベルリン 三元インターネット市民交流

鷗外がその半生を暮らした千駄木 観潮楼跡地の文京区立森鷗外記念館を第一会場に、ネットライブ中継でゆかりの各地を結び、音楽を楽しみながら市民交流します。

第二会場：文京区向丘2丁目大観音寺 第三会場：文京区役所シビック玄関ホール
時間：11:00～16:00
主催：上千駄木町会 03-3827-5757

文京ふるさと歴史館の催し

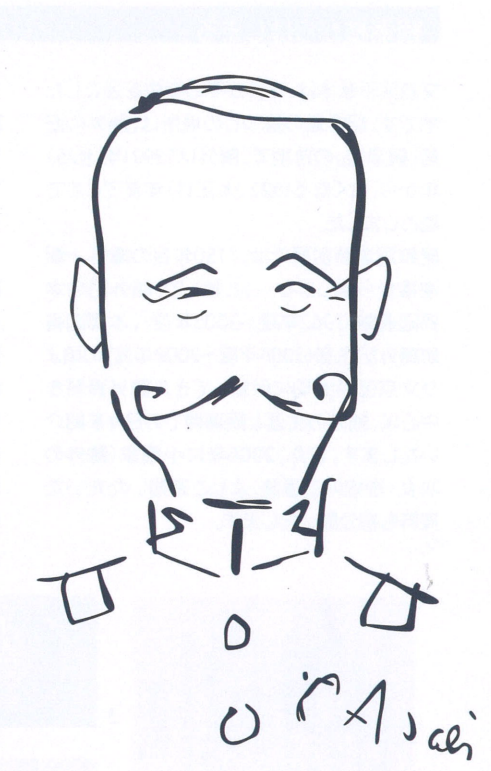
平成24年度特別展
「洪庵、知安、そして鷗外
近代医学のヒポクラテスたち」

会期：10月27日（土）～12月9日（日） 休館日：毎週月曜日
入館料：一般 300円、団体（20人以上）210円、中学生以下と65歳以上は無料
時間：10:00～17:00 問い合わせ：文京ふるさと歴史館 03-3818-7221

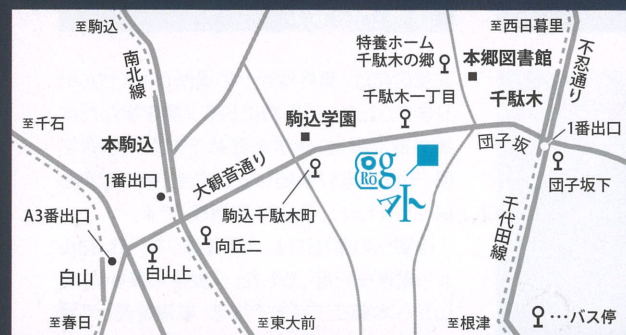
森鷗外生誕150年記念事業

文京区では11月の森鷗外記念館開館をはじめ、さまざまな記念事業を開催しています。
詳細は各主催者および文京区HP森鷗外生誕150年記念事業のページをご覧ください。

<http://www.city.bunkyo.lg.jp/>



鷗外の似顔絵
浅井忠・画（「スバル」創刊号の裏表紙）
<1909年1月>



〔交通案内〕

- 電車をご利用の場合
 - ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口徒歩5分
 - ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口徒歩10分
 - ・都営三田線「白山」駅 3番出口徒歩15分
 - バスをご利用の場合
 - ・都営バス草63番系統「千駄木一丁目」下車徒歩1分
 - ・都営バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分
- ※一般の駐車場設備がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 Tel 03-3824-5511

ホームページのお知らせ

11月1日の開館に向けて、新たなホームページを開設しました。
新しい情報を随時掲載していきますので、ぜひご覧ください。

<http://moriogai-kinenkan.jp>

文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum

2012年9月 文京区立森鷗外記念館編集・発行

og
Rōg
アト

文京区立 森鷗外記念館NEWS

開館準備号 No.0



2012年11月1日(木) OPEN

「文京区立森鷗外記念館」が開館いたします。

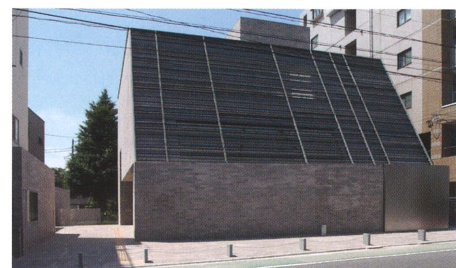
明治の文豪森鷗外が生誕して150年目の今年、文京区立本郷図書館鷗外記念室が、新たに「文京区立森鷗外記念館」として生まれ変わります。

小説家、戯曲家、評論家、翻訳家、陸軍軍医と、いくつもの顔をもつ鷗外は、その業績から傑出した才能は明らかですが、文化人たちとの交流からも人間鷗外の大きさを知ることができます。鷗外の活躍にならない、記念館も幅広い活動を目指しています。文字との出会いだけでなく、文学と人と街とが広く交流する場になりたい—そうした願いをこめて、文京区立森鷗外記念館が開館いたします。



観潮楼正門（現在も門柱跡が残る）

森鷗外生誕150年を記念して、観潮楼跡に 文京区立森鷗外記念館がオープンします。



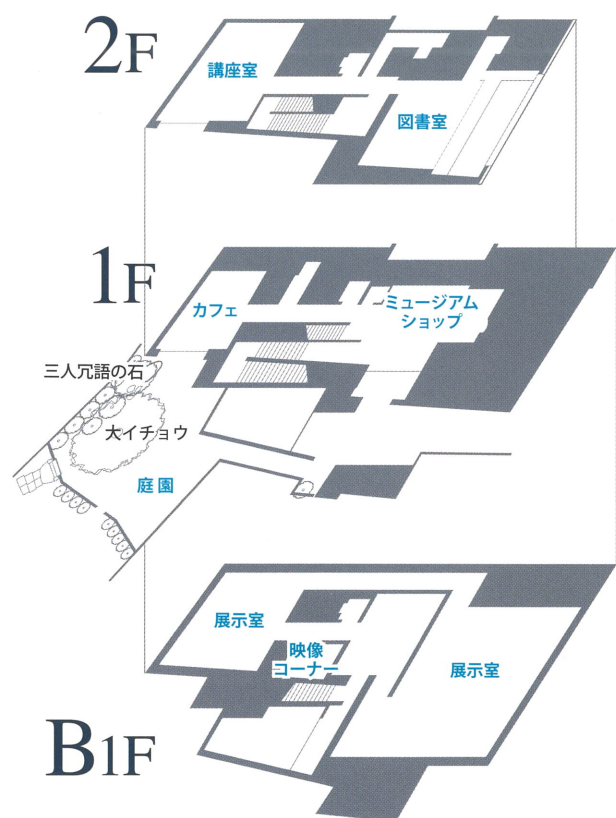
正面外観



B1F 展示室



1F エントランス



2F 図書室
鷗外の著作や研究資料を継続的に収集しています。調査研究等にご利用ください。

講座室
展示会関連講座や当館主催のワークショップなどを開催します。

1F 受付・ミュージアムショップ
記念館オリジナルグッズをはじめ、鷗外作品や展示会図録を販売します。

カフェ
お茶やお菓子を召し上がりながら、庭園の見える空間でごゆっくりお過ごし下さい。

庭園
庭園内には鷗外が観潮楼で親しんでいたといわれる草花が植えられています。四季折々の風景をお楽しみください。
また、敷地内には観潮楼正門の門柱跡が残り、大イチョウや鷗外ゆかりの「三人冗語」同人が座った大石を見ることができます。

B1F 展示室
収蔵資料を中心に多彩な展示会を開催し、鷗外とその作品、そして文の京「文京」の魅力をご紹介します。

映像コーナー
鷗外や観潮楼に関する映像を上映します。



森鷗外 Mori Ogai

本名は森林太郎。1862(文久2)年1月19日、津和野藩の典医を務める森家の長男として生まれました。10歳のとき津和野(島根県)より上京し、ドイツ語を学び東京大学の予科に1860(万延元)年生まれとして入学、大学では医学を学び、卒業後軍医となりました。

1884(明治17)年から4年間、軍の衛生学の調査及び研究のためドイツに留学しました。帰国後は、軍医としての仕事のかたわら、

小説「舞姫」「雁」「山椒大夫」「高瀬舟」、史伝「渋江抽斎」などを執筆、医学・文学の評論や小説・戯曲等の翻訳、ヨーロッパ文学の紹介などを行い、明治を代表する知識人として活躍しました。

1907(明治40)年には、軍医総監・医務局長に就任、1916(大正5)年まで務めました。その後、帝室博物館総長兼図書頭の職につき、1922(大正11)年7月9日、60歳でなくなりました。

文京区立森鷗外記念館 開館記念特別展

150年目の鷗外 —— 観潮楼からはじまる

2012年11月1日(木) — 2013年1月20日(日)
開館時間 10:00~18:00 (最終入館は17:30)
休館日 12月25日(火)、12月29日(土)~1月3日(木)

観潮楼からはじまる

文京区千駄木は、鷗外がその半生を過ごした地です。記念館の建つこの場所は、鷗外の旧居「観潮楼」の跡地で、鷗外は1892(明治25)年から、亡くなる1922(大正11)年までここで過ごしました。

開館記念特別展では、『150年目の鷗外—観潮楼からはじまる—』と題して、鷗外記念本郷図書館(1962年度~2005年度)、本郷図書館鷗外記念室(2006年度~2008年度)の頃より文京区が大切に保管してきた鷗外資料を中心に、鷗外の生涯と観潮楼での日々を紹介いたします。また、2006年に小堀家(鷗外の次女・杏奴のご遺族)よりご寄贈いただいた資料も初公開いたします。

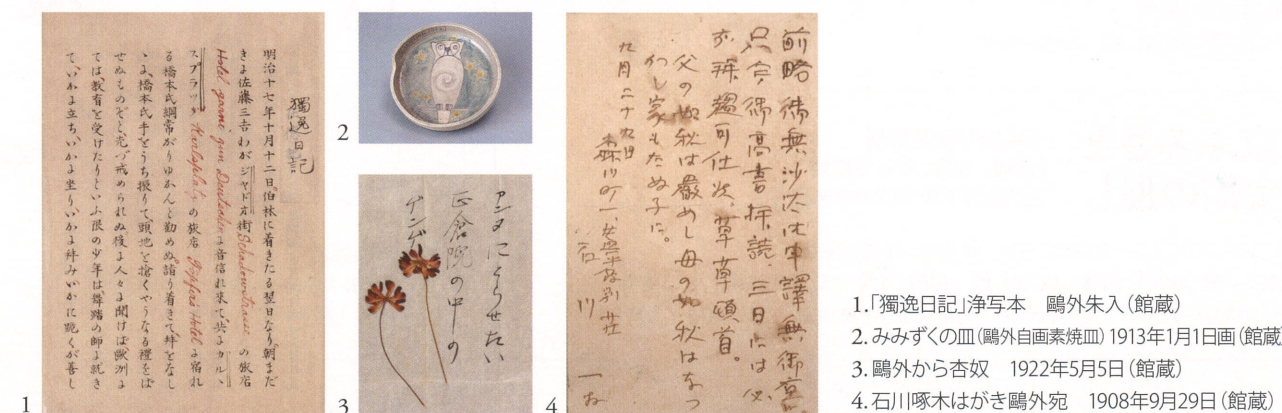
文豪と軍医という異なる世界を強靱に保った鷗外の人生は、のこされた日記や自筆原稿、書簡類などからうかがい知ることができます。常設展示では、作品の中にこめられた鷗外自身の体験や考えとともに、鷗外の生涯をたどります。

開館記念特別展の特集は、「観潮楼」です。ここでは大きくふたつの視点で鷗外の生活を展示します。
観潮楼は鷗外にとって交流拠点でした。観潮楼歌会をはじめとする集まりや日々の訪問客には、石川啄木、齋藤茂吉、與謝野寛、永井荷風、正岡子規など、多くの文化人たちがいました。日本近代文学のサロンといえる観潮楼で

の交流や、観潮楼で書かれた作品を通して、文豪鷗外を紹介します。

鷗外一家の住居であった観潮楼には、鷗外と祖母・父・母・弟・妻、そして子どもたちとの暮らしがありました。出張先からこまめに送られた手紙やはがきの文面は、鷗外の家族への想いがあふれています。家族から「パッパ」と呼ばれたり、子どもたちに勉強を教えるために鷗外自ら教科書を手作りしたり…新収蔵資料から家庭人鷗外に触れます。

明治という時代を日本の近代化とともに生きた鷗外のメッセージは、私たちに何を伝えてくれるのでしょうか。ご来館お待ちしております。



- 1.「獨逸日記」浄写本 鷗外朱入(館蔵)
2. みみずくの皿(鷗外自画素焼皿) 1913年1月1日画(館蔵)
3. 鷗外から杏奴 1922年5月5日(館蔵)
4. 石川啄木はがき鷗外宛 1908年9月29日(館蔵)

観潮楼とは

観潮楼とは、鷗外が1892(明治25)年1月から亡くなるまで住んだ家です。観潮楼は団子坂上に位置し、別名汐見坂とも言われ江戸の頃には遠く東京湾がのぞめたといえます。この家の2階からも海が見えたと言われ、鷗外により観潮楼と名付けられました。



観潮楼2階

鷗外の足あと

文京区には、鷗外ゆかりの場所がたくさんあります。上京して最初にドイツ語を学んだ本郷の進文学社、医学を修めた東京大学医学部、千駄木町57番地(向丘)の家(後に漱石も居住しました)、そして「観潮楼」です。

陸軍への通勤には、大観音通りを行き、白山から電車を利用しました。夕食後の散歩は、白山から本郷三丁目まで歩き、根津を通って戻ります。休日には植物園などに出かけました。鷗外の見た明治の文京の姿は、小説「青年」や「雁」などにも、うかがうことができます。11月の記念館開館の折には、当館から鷗外の息吹の残る街へ、お出かけください。